

YMCA News




「好きな場所で幸せに暮らせるように」



最近、テレビのニュースなどで、アフガニスタンという国のことを見聞きしたことがあると思います。世界地図で探すと、インドという大きな国の西にパキスタンがあり、その西にあるのがアフガニスタンです。(皆さんも探してみてください) パキスタンもアフガニスタンも国の名前に「スタン」と付いています。これはペルシャ語で「国」「土地」という意味で、アフガニスタンは「アフガン人の土地」という意味です。さて、そのアフガニスタンでは40年間も戦争が続いてきました。そしてたくさんの人が安全に暮らす場所をなくし、隣のパキスタンにも逃げました。今もたくさんの人たちが逃げています。

私はこれまでに何度かパキスタンを訪れ、パキスタンのYMCAと一緒にアフガニスタンから逃げてきた子どもたちのための学校を支援してきました。日本のYMCAのみなさんからの募金で作られた学校です。上にある写真は、その学校に通っていた子どもたちです。子どもたちの親は仕事がなく、家族みんなでテントに生活をしていました。もし、皆さんが住んでいるところで戦争がはじまったら、と想像してみてください。他の地域や国に逃げて、そこでも学校

に通い、仕事をする事ができるでしょうか。自分には関係ないなあ、と思うかも知れません。でも10年前に起きた東日本大震災では岩手県でもたくさんの人が亡くなり、住む場所もなくなり、同じ学校に通うことや仕事を続けることができなくなりました。世界中には戦争や災害のために生まれた場所や自分が大好きな場所で暮らすことができない人たちがたくさんいます。そんな人たちのために何ができるのでしょうか。もしかすると自分も同じ立場になるかも知れません。

このように戦争や災害で困っている世界の人々のことを思い、自分のことのように考えられる人を地球市民と呼びます。YMCAは世界120カ国にあって、たくさんの地球市民が活動しています。世界中のみんなが、自分が大好きな「スタン(土地)」で暮らすことができるよう、みなさんもYMCAで地球市民として何ができるか、考えてみてください。

大阪YMCAグローバル事業グループ長
山根一毅(やまねかずき)

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



こんにちは!シャベルです!先日、東日本地区のユースリーダーが集う、「第33回ユースボランティア・リーダーズフォーラム」に参加してきました。盛岡YMCAからは、フォルテ、はなこ、ぼん、ラビ、りんりん、シャベルの6人のリーダーが参加しました。

各都市YMCA紹介では東日本地区のそれぞれのYMCAが持つ特色が色濃く感じられ、障がいを持った子どもとの活動をしているところもあれば、東日本大震災を知らない子どもたちと、震災について学ぶためのプログラムを行っているところもあり、私たちにとって勉強になることが多く、活動の幅を広げるヒントになりました。私たち盛岡YMCAの紹介では、メンバーが工夫を凝らした渾身のパワーポイントを用いて、私たちリーダーが持つ、子どもに対する思いを軸に活動をしていることや、リーダーが一から作り上げる「サンデースクール」の活動について、クイズを用いながら紹介しました。基調講演では「LGBTの子どもが安心していられる場所は、LGBTじゃない子どもも安心していられる場所」と題して男性同性愛者をカミングアウトした上で牧師を務めている、平良愛香さんにご講演いただきました。その中で私たちが正しい情報を子どもに教えることや、

小学校からすり込まれる間違っ知識を修正する責務があることを学びました。ご講演いただいた後には盛岡YMCAで未来へのアクションプランも考えました。また、主催の横浜YMCAのプログラムでは「まる」という歌に合わせて、自分たちで振り付けを考え、それをつなぎ合わせて一つの動画にする企画もありました。

他のYMCAのリーダーとも楽しく関わられる機会となり、交友も広がりました。「まる」という歌はコロナ禍で作られたキャンプソングで心が温“まる”歌詞になっています。ぜひ野外活動やキャンプで子どもたちと一緒に歌いたと思います。

2日間、他のYMCAのリーダーとはZoomを用いた交流となりましたが、沢山の気づきや学びがあり、活動へのモチベーションアップにもなりました。

この経験を一人一人が活動に生かしていきたいと思います。

盛岡YMCAボランティアリーダー
(岩手大学2年)藤根奈実子



専門職研修報告

4 質の高い教育を
みんなに



7月19日(月)~7月23日(金)の5日間、専門職管理者研修に参加しました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、Zoomを使用したオンライン研修となりましたが私の他に仙台YMCA、東京YMCA、横浜YMCA、奈良YMCA、京都YMCAから合計13名の参加で今回の研修を行いました。

今回の研修では、グループでの協議が多く、自分にはない発想や考えを持っており、意見を交わしあうほど実のある研修となりました。また、講師の方々の講義では改めて、YMCAの理念を確認するとともに、今回参加したメンバーと話し合い、自分がどのように考えているのかをこれまで以上に知ることができました。講義の中には、人間関係トレーニングやストレスマネジメントの講義もあり、これからの業務に活かしていける内容でした。また、今回の研修は、専門職としての専門性を高

めることを目的として行われ、この研修に参加したことで自身自身の専門性が磨きかけとなり、これからの日々を活かしながら考えていきたいと思います。今回の研修では、残念ながら他のYMCAスタッフと直接会うことができず、交流が難しい面がありましたが、講義の休憩時間や懇談会という形で、オンラインで交流することができました。それぞれの場所、地域の文化も知ることができ、とても楽しい研修となりました。

今回の研修で得られた知識や考え、新しい出会いに感謝し、これからも盛岡YMCAの支えとなれるよう頑張りたいと思います。

前潟センタースタッフ 大久保里美



コロナ感染症対策の学び

3 すべての人に
健康と福祉を



盛岡 YMCA の理事でもある東八幡平病院院長、及川忠人先生から新型コロナ対策について職員を対象に講演をしていただきました。

今回、及川先生から新型コロナウイルス感染症対策についての講義の中で、新型コロナウイルスの特徴、感染経緯、現在における状況等のお話をいただき、これまで深く見つめることが無かった部分について知ることができました。そして、新型コロナウイルスの脅威性を再認識する機会となり「自分自身、そして他者への感染を防ぐためにもこれまで以上に感染予防対策を徹底していこう」と考えるようになりました。

現在は20歳代から30歳代及び児童への感染に移り変わってきている傾向があり、ウイルスがどこに潜んでいるか分からないからこそ、自分が感染してしまわないように、そして他者へ感染させてしまわないようにするには、講義の中であった

「まずは自分を守る」というのが、とても大切だと感じました。これまではコロナウイルスの感染予防対策として、マスクの着用や手指消毒、換気や施設内消毒についても「効果的だから」という情報だけで行っていたが、【何故】効果的なのだろうと【何故】の部分について考えてはいなかったように思います。しかし、コロナウイルスの特徴である、ウイルスが空間物質の上で残存している時間の長さといったところでは、日常生活の中で無意識にウイルスに触れてしまっている可能性があると考え、そこから更に広げない為に手洗いうがい、手指消毒、施設の換気やこまめな消毒など、自分にできることをしっかりと取り組んでいきたいと思います。

前中野センタースタッフ 小泉翔平



国際協力募金 キックオフ!!

2021年11月1日より国際協力募金活動が全国のYMCAで開始となります。YMCAの国際協力募金活動は全国のYMCAで毎年実施されており、昨年度、盛岡YMCAには213,620円の募金が寄せられました。これもひとえに募金にご協力下さった皆様を始め、募金箱の設置、及びポスター掲示にご協力下さった地域の諸団体の皆様のお力添えがあってこそだと強く感じております。

皆様から寄せられた募金は、日本YMCA同盟を通じて、主にミャンマー(公衆衛生活動)、カンボジア(経済的な理由で、学校に通えない子どもたちへの支援活動)、タイ(児童保護活動)、ベトナム(小学校建設)、東エルサレム・ギリシャ(難民支援活動)、ネパール(収入を失った人の生活支援、災害支援)、アジアの東ティモール(子どもたちや若者の教育活動)への支援等に充てさせて頂きました。ご協力下さった皆様には、改めて御礼を申し上げます。

2021年度の募金の受け入れ期間は、11月1日から2月28日までとなります。期間中寄せられた募金は、日本YMCA同盟を通して世界各国のYMCAの支援活動に使用されます。募金送付先の人々のことは、きっと私たちは知らないと思えますし、そんな彼等への募金といわれても実感がないかもしれません。しかし、世界各国で困難に直面しており、募金による支援が前に向かって進めるきっかけとなる人々は多くいます。支援の一つひとつは小さなことかもしれませんが、その積み重ねは大きな力となり、支えとなっていくと考えています。

YMCAの国際協力募金活動を通じて、多くの方々に、知らない誰かを知ろう、力になろうと思って頂ければ幸いです。2021年度も、国際協力募金活動へのご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

国際協力募金担当 スタッフ藤原依音

↓ネパールワークキャンプ



↓ネパールワークキャンプ



↓インド・スタディツアー



認定 NPO 法人取得のお知らせ

これまでNPO法人として活動してきた盛岡YMCAですが、適正な運営組織や活動の公益性を持つNPOとして、一定の基準を満たすことで、8月20日付で盛岡YMCAは、認定NPO法人となりました。

認定NPO法人となり、大きく変わる点といたしましては、寄付者に対する税制控除があげられます。税制控除の詳細につきまして、以下ご覧ください。

【モデルケース】

所得控除を選択した場合	税額控除を選択した場合
(例1) 給与収入300万円の方が1万円寄附した場合、 所得税400円 税額が減少。	(例1) 給与収入300万円の方が1万円寄附した場合、 所得税3,200円 税額が減少。
(例2) 給与収入500万円の方が1万円寄附した場合、 所得税800円 税額が減少。	(例2) 給与収入500万円の方が1万円寄附した場合、 所得税3,200円 税額が減少。
(例3) 給与収入700万円の方が1万円寄附した場合、 所得税1,600円 税額が減少。 (計算式) 所得税額の減少額 ⇒課税所得×所得税率-(課税所得-(寄附金-2千円))×所得税率(例1.5%,例2.10%,例3.20%)	(例3) 給与収入700万円の方が1万円寄附した場合、 所得税3,200円 税額が減少。 (計算式) 所得税額の減少額(税額控除を選択した場合) ⇒(寄附金額-2千円)×40% なお、税額控除額の上限は所得税額の25%

ぜひYMCAの使命にご賛同いただき、維持会費、寄附金でのご協力をお願いいたします。



↑認定証を受け取る深澤秀男副理事長

ステップⅡ研修 意気込み

ステップⅡの話を頂いた当初、急な話でしたので自分の中で呑み込めないまま「行きます。」と返答したのが正直なところでした。ステップⅡは以前、先輩の伊藤さんや小川さん、同期の浅沼さんが派遣されたので、2か月間盛岡を離れ静岡へ赴き研修を受けてくるものだというイメージがありましたが、詳しくはどのようなものなのかは分かりませんでした。

また、児童クラブの現場や、コロナ禍という環境下で大変な状況の中、勉強に集中させて頂く機会を頂いても良いのだろうかという気持ちや、盛岡の仲間たちと日々楽しく過ごしている環境を離れたくないという気持ちがあり、迷いました。

しかし、YMCA運動の役に立てるチャンスであるならと、ステップ

Ⅱへの参加を決めました。今までがむしゅらに現場で働いて来ましたが、YMCAでの自分の将来を真剣に考えたことはありませんでした。今回のステップⅡ研修では、一度立ち止まってそれを考え、自分にできることはないか探る機会にしたいと考えています。

やると自分で決めたからには、何かしら貢献できるものを持ち帰って来られるよう努力したいと考えています。普段お世話になっている皆さん、現場を離れる間ご迷惑おかけするかと思いますが、何卒宜しくお願い致します。また、このような機会を下された沢山の皆様、有難うございます。

向中野センター長 尾形裕一郎

「立ち止まる」

「涙の数だけ強くなれるよ アスファルトに咲く花のように...♪」
90年代ずいぶん耳にした曲だが、出だしのこの部分しか記憶に残っていない。しかし、今でも時折口ずさんだりするのは、それだけインパクトが強烈だったのだろう。

自分勝手にこの部分を想像してみた。社会人になって2~3年目の社員のAさん。同僚はすぐに環境になれてどんどん仕事をこなしていくのに、自分はボカばかり。今日も大失敗をやらかしてお客様はもちろん、職場のみんなにも随分迷惑をかけてしまった。「なんでこんなふうに生まれてきたのだろう?」そんなことを考えながらとぼとぼとアパートに帰る途中、ふと足元を見ると西日の中に輝く一輪の花を見つけた。

人間は自分にふりかかる「アクシデント」については過敏に反応する。ほんの些細なことでも他者に対しての何十倍も不幸に感じてしまうらしい。その一方で自分に注がれている「めぐみ」については恐ろしく鈍感だ。それだけ人間にとって幸福を見つけるのはむづかしいことなのだろう。

あわただしく過ぎていく毎日の暮らしの中でちょっと立ち止まってみる。身の回りの些細なことに感謝の目を向けてみる。アスファルトに咲く小さな花から勇気を受け取ることができる感性は、人間が生得的に持ち合わせている能力ではない。意識して自ら訓練すること、そして他者との関わりの中で身につけていく習慣であると僕は思う。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事に感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって神があなたに求めておられることである。」

(テサロニケへの第一の手紙5章16~18節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

「あきらがあけてあげるから」

さく・え ヨシタケシンスケ PHP研究所

「くやしい ぼくはくやしい。ボクはチョコがたべたいんだけど、このふくろ、あけにくいんだよ。に~~~~っ、い~~~~っ、はーはーはー」 ありったけの力を振り絞って袋と格闘する「あきら」。もしかしたらあなたも同じような経験をしたことがあるのでは? そんな「あるある」で始まるこのお話の主人公「あきら」はいったい何をあけてあげるのでしょうか。



チョコの袋と格闘した挙句、とうとうあけられなかったあきらの向かった先はお母さん。「あけて」とお願いするといとも簡単にピッ! 「...くやしい。ボクもおかあさんみたいにピッとあけてみたい。あしたとかあさってとか、もうすこしおおきくなったらボクはきっとなんでもあけられるようになっておもうんだ。」「じぶんのぶんもみんなのぶんもぜーんぶあけてあげたい」そこからあきらの妄想劇場が始まります。金庫、鍵を落とした側溝のふた、恐竜が埋まっている巨大な岩...、あきらの妄想はどんどん加速しぐんぐん巨大化!とうとう〇〇まで!!ふ~~~~っ、妄想が一通り収まるとふとわれに返り、ジュースを飲もうとペットボトル片手に今度向かった先は?ここから「お父さん登場」です。ぼかぼか温かくてちょっぴり切ないお父さんの気持ちがつづられています。この先を知りたい人は是非、この本を手にとってみてくださいね。

「今は難しいけれどいつか必ずできるようになる!」と信じ、できたことを人にしてあげたいと思うあきらのように、こどもの頃あけられなかったお菓子の袋を、いつの間にか簡単にあけられるようになってあなたには、まだまだたくさん「できる」が眠っているはず。これから、これから。

盛岡医療福祉スポーツ専門学校 ども福祉学科教員
浜端 郁子

～ 感謝 ～

(2021年9月30日現在)敬称略

●維持会員

山本常雄、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見晃弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤真一郎、伊藤みどり、及川茂夫、accommon、森山日菜乃、森山幹大、伊藤真太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、浅沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理恵子、川坂保宏、魚住恵、魚住英昭、高橋友恵、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、濱塚有史、水野暢夫、角谷普治、尾形裕一郎、菅原茉理奈、小川嘉文、小川明佑、東森聡、茶畑大地

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>

表紙の写真から



アフガニстанは長い内戦と2001年の米軍の軍事行動で多くの国民がパキスタンに流れ、難民となりました。2003年、パキスタンのラホールYMCAと日本のYMCAは小学校を開設しました。